

楽軒

展覧

第3種郵便物認可

折り鶴の扱ひも公募

広島市の松井一実市長は30日、中区の平和記念公園にある「原爆の子の像」に国内外から寄せられた折り鶴の活用策を、市民から公募すると発表した。この日の定例会見では、平和宣言に盛り込む被爆者の声の公募も発表。「長期保存ではなく、折り鶴に託された平和への思いを世界の市民でどう共有していくかが大切だ」と呼びかけた。

広島市長「昇華方針変わらぬ」

原爆の子の像に年1千万羽

原爆の子の像には毎年、国内外から1千万羽以上、重さ10トンの旧日本銀行広島支店で展示している。2002年度からは秋葉忠利前市長の指示で焼却せず、市の施設で保管。10年度末で1億1千万羽、秋葉前市長は07年の市長選で、折り鶴の恒久保存施設の建設を公約に掲げたが、実現せず



2009年度に寄贈された折り鶴計1200万羽を保存展示している旧日本銀行広島支店。30日も岐阜県からの修学旅行生が見学していた＝広島市中区袋町

市、一部の案を今夏試行も

に引退。松井市長は就任当初から、「コストを考えれば決して正しいやり方ではない」と施設建設に否定的な考えを示していた。ただ、松井市長はこの日、「思いを『昇華』する方針は変わらないが、市民の間にも賛否両論ある。広く意見を聞く必要があると感じた」と語った。

今回は折り鶴に託された平和への思いを「昇華」させるため、たきあげなども含め、どんな方法があるか意見を募る。さらに「昇華」させること自体への賛否、保存するならどの程度の期間、保存すべきかなどの意見も募る。いいアイデアがあれば、今年の平和記念式の時期に、試行的に実施する方針。

募集期間は6月1日～7月29日。平和記念式で試行実施してほしい案は6月30日までに応募する必要がある。市は平和関係団体や教育機関、古紙再生機関などから有識者を集め、検討委員会を設置。試行実施の結果も踏まえ、来年2月までに意見をとりまとめる。

応募は、アイデアや意見を記載し、広島市平和推進課被爆体験継承担当(082・242・7831)に郵送か持参、または電子メールで(peace@city.hiroshima.jp)へ送る。

(倉富竜太)